

神辺小だより

平成31年1月24日 発行
亀山市立神辺小学校
亀山市太岡寺町1310番地
NO.10 (文責:清水)

大寒の厳しい寒さが身にしみる季節となりました。皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、3学期がスタートして、3週間が過ぎました。子どもたちは、冬休みモードを一掃し、いつもの学校生活に戻り、学習などに取り組んでいます。先日は百人一首歌い会を開催し、保護者や地域の皆さんにもご参加いただき、大いに楽しみました。

今回の神辺小だよりは、2学期末にご協力いただいた学校評価アンケートの結果などについてお知らせいたします。

学校評価アンケートにご協力ありがとうございました！

保護者、地域・学校関係者の皆様には、学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。アンケート結果の集約をご報告させていただきます。皆さまから頂いたご意見を真摯に受け止めるとともに、今後の教育活動に活かしていきたいと考えております。

これからもご理解・ご支援・ご協力のほど、よろしく願いいたします。



～アンケートの分析・考察～

〈児童アンケート〉

学校生活について、肯定的な意識を持っている児童の割合が高い傾向にあり、これは学校生活の充実が起因しているものと思われます。以下には、良好な事項、心配な事項、大きく意識が変化した事項について、考察を交えてご報告いたします。

- 「学校生活が楽しい」と感じている児童の割合が高い（約98%の児童）のが、神辺小学校の継続した傾向です。学習理解や人間関係など、総合的に影響する項目であり、学校生活に自分の居場所があり、学習活動に参加できているものと推察できます。
- 「掃除や係の仕事がきちんとできた」についても、ここ数年高い意識を児童（約96%の児童）が持っています。掃除の時間に校内を歩くと、落ち葉拾いや渡り廊下掃除、床のモップがけなど、随所にかんがる児童の姿があります。学校への地域の皆さんの協力・保護者の廃品回収などへの協力などを鑑みたと、協同して働くことは神辺地区の文化でしょうか。
- 90%以上の児童が肯定的な回答をした項目が11項目（22項目中）あり、児童の学校生活への肯定的な意識が高い。
- 縦割り班活動について否定的な回答が5ポイント程度増えました。例年と活動自体は変わらないのですが、高学年児童の回答野中で否定的な回答が増えたことが起因しています。毎年活動ではありますが、高学年児童は同じ内容を繰り返し行っており、児童のニーズにあった新しい縦割り班活動の内容を志向する必要があります。
- 「学校の決まりが守れたか」について。否定的な回答が5ポイント程度増えました。これは、生活におけるルールや授業中の節度・マナーが守れたかどうかをきちんと顧みる子が多かったのではないかと考えています。現在、学校生活においては、おおむね落ち着いた様子が見られますが、今後も授業支援などに注力していきます。
- 「学校の授業はよくわかる」「習熟度やT・Tの算数の授業はよくわかる」については、低学年児童の回答に否定的な回答が多くありました。低学年ではT・Tでの指導（1時間の算数を複数教員で指導）をしていますが、T・Tなどの指導形態よりも、算数に対しての苦手意識が影響していると思われます。学習内容の確実な習得に向けて、授業内容の改善、補充学習や家庭学習の工夫に取り組み、総合的に学習理解の増進を図っていきます。

《保護者アンケート》

ここ数年、経年で肯定的な意見が減少していく傾向があります。平成30年度もその傾向があり、学校の説明・周知の仕方、情報発信に課題があって、「判断できない」との回答が増え、その分肯定的な回答が減少してきていると思われます。

- 「学校は、教育方針や取組みをわかりやすく伝えるよう努力している」「学校は地域の環境や人材を積極的に取り入れようとしている」「学校は保護者や地域の方々と連携しながら子どもを指導しようとしている」「教職員は、学級目標やその取組み状況、学級内での出来事を定期的に知らせている」「教職員は、子どもたちや保護者との信頼関係づくりに努めている」「学校の子どもは、様々な行事や体験活動に意欲的に取り組んでいる」については、肯定的な回答が減少いたしました。学校の教育活動について、学校便り、HP等でもお知らせしています。また、学級の様子については懇談会や学級便りで、個別の児童については直接、保護者にお知らせをしています。このような活動を継続するとともに、教職員が教育活動について直接保護者の皆様にお知らせする機会が必要と考えています。また、地域の人材活用等については、学習ボランティアの数も増え、学校内で活躍いただく場面も増えています。保護者の皆様の学校への理解を深めるよう、今後とも、情報の発信に努めます。
- 「教職員は様々な行事や体験活動を工夫して子どもたちを取り組ませている」について、肯定的な回答が減少いたしました。これは、今年度見直しをした学校行事について、周知が丁寧でなかったことも原因の一つと思われます。今後も、学校行事は見直していきます。①安全が確保できない行事、②児童への教育的な効果、③すべての児童が参加できるもの、④教職員の働き方改革の観点、この4つの視点で行事を見直し、新しい学習指導要領に沿った学校運営を目指します。見直しの際には、適時保護者に周知し、ご理解を得るよう努力します。
- 「子どもたちは、授業中、真剣に学習している」について、肯定的な回答が減少いたしました。これは、多くの児童が真剣に学習していますが、一部、教室の授業が騒然とする場面もございました。すでに、保護者に理解と協力を求め、複数での指導を多く取り入れたことにより、どの学級においてもおおむね落ち着いた学習が実現しています。

《地域・学校関係者アンケート》

多くの項目で、肯定的な回答が減少し、「あまり思わない」「判断できない」の回答が増加しました。これは、ご協力いただく方々の数値が増えるほど、その傾向が多くなってきました。保護者と同様に、学校の取組みについて丁寧に周知していく必要があると考えています。また、関係者の皆様には、学校の行事、授業参観などの機会を捉えて、学校の教育活動についてご意見をいただく機会を設ける必要があると考えています。

《アンケート結果について総括》

アンケート結果、児童は肯定的な意見が多く、保護者や地域・学校関係者は否定的な意見が増える傾向にありました。これは、学校からの周知に課題があり、関係する皆様に適切に情報が伝わっていないことが原因と考えています。今後は、児童の学校生活や学習の状況、教職員の状況、地域との関係などについて周知を図るよう努力していきます。また、具体的な改善活動についても、保護者からいただいた声も参考にしながら進めて参ります。

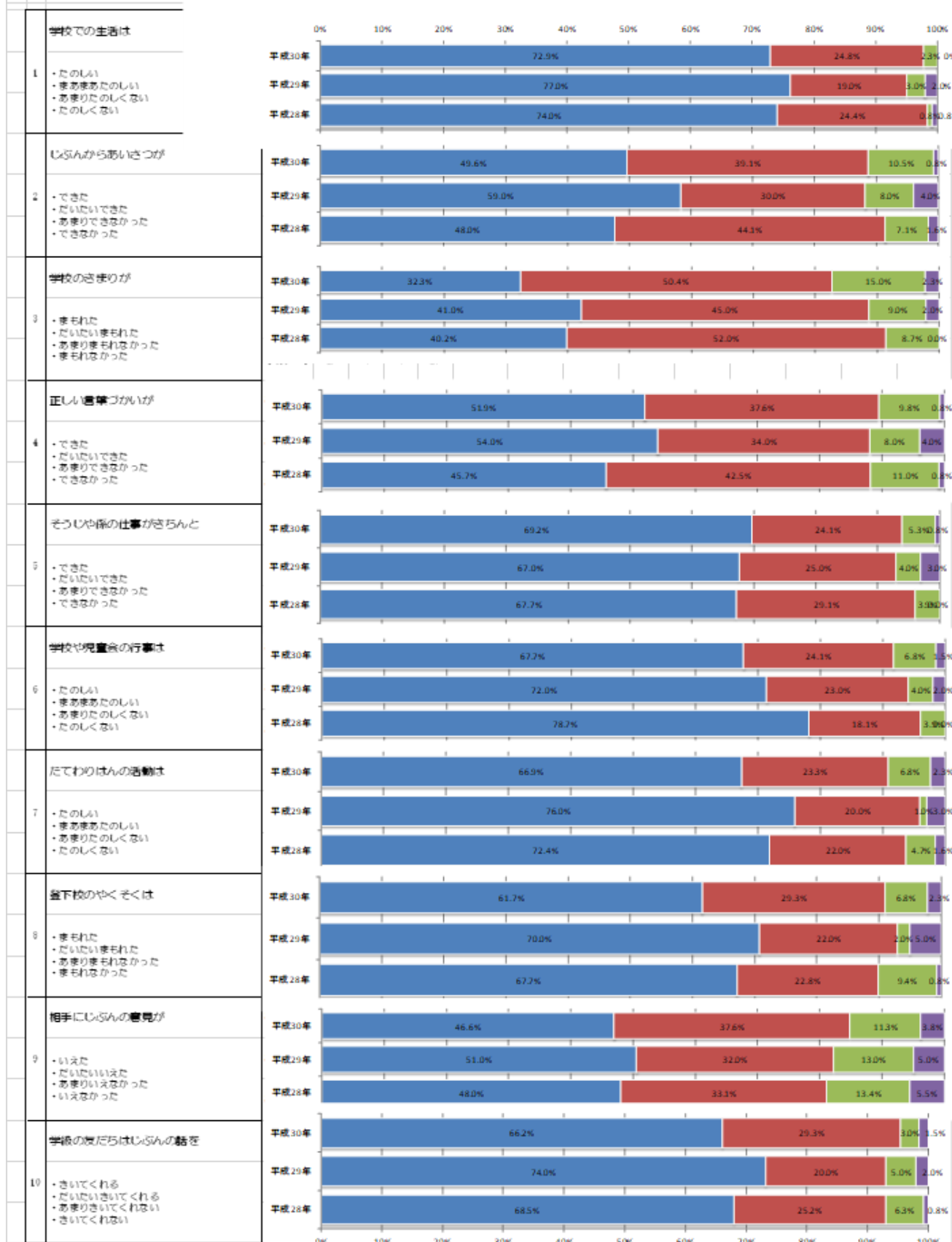
また、今回のアンケート調査の結果を踏まえ、学校は「学校自己評価」を行い、その適正について「関係者評価」を評価委員（学校運営協議会委員）からお受けすることになっています。そこでいただいた評価も生かしながら、教育活動の改善に取り組んで参ります。

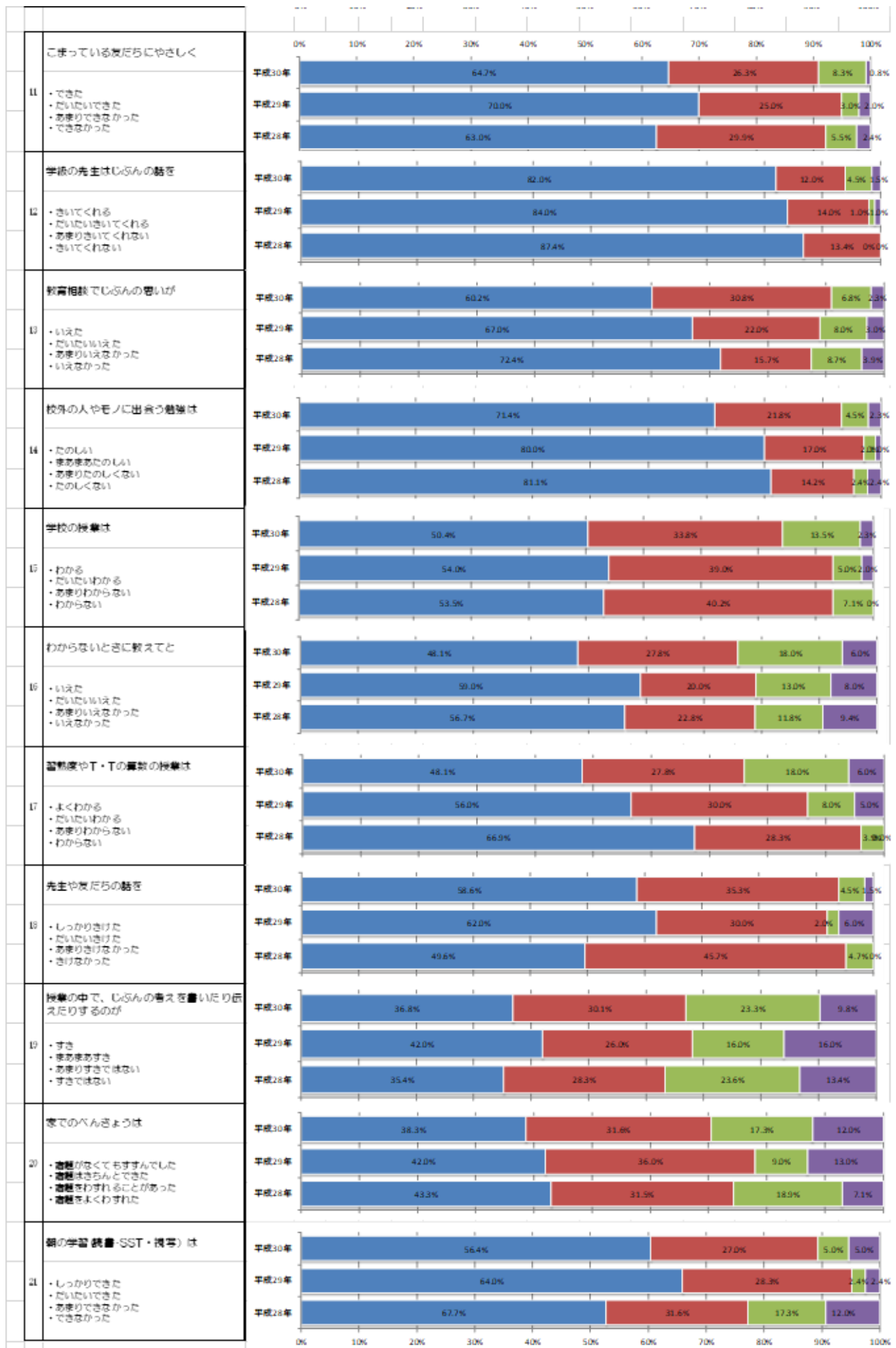
なおアンケート結果および考察は、カラー版を神辺小学校ホームページにも掲載いたします。ご覧ください。

<http://www.kameyama-mie.jp/~kblog/kanbe/>

平成30年度 児童生活アンケート結果

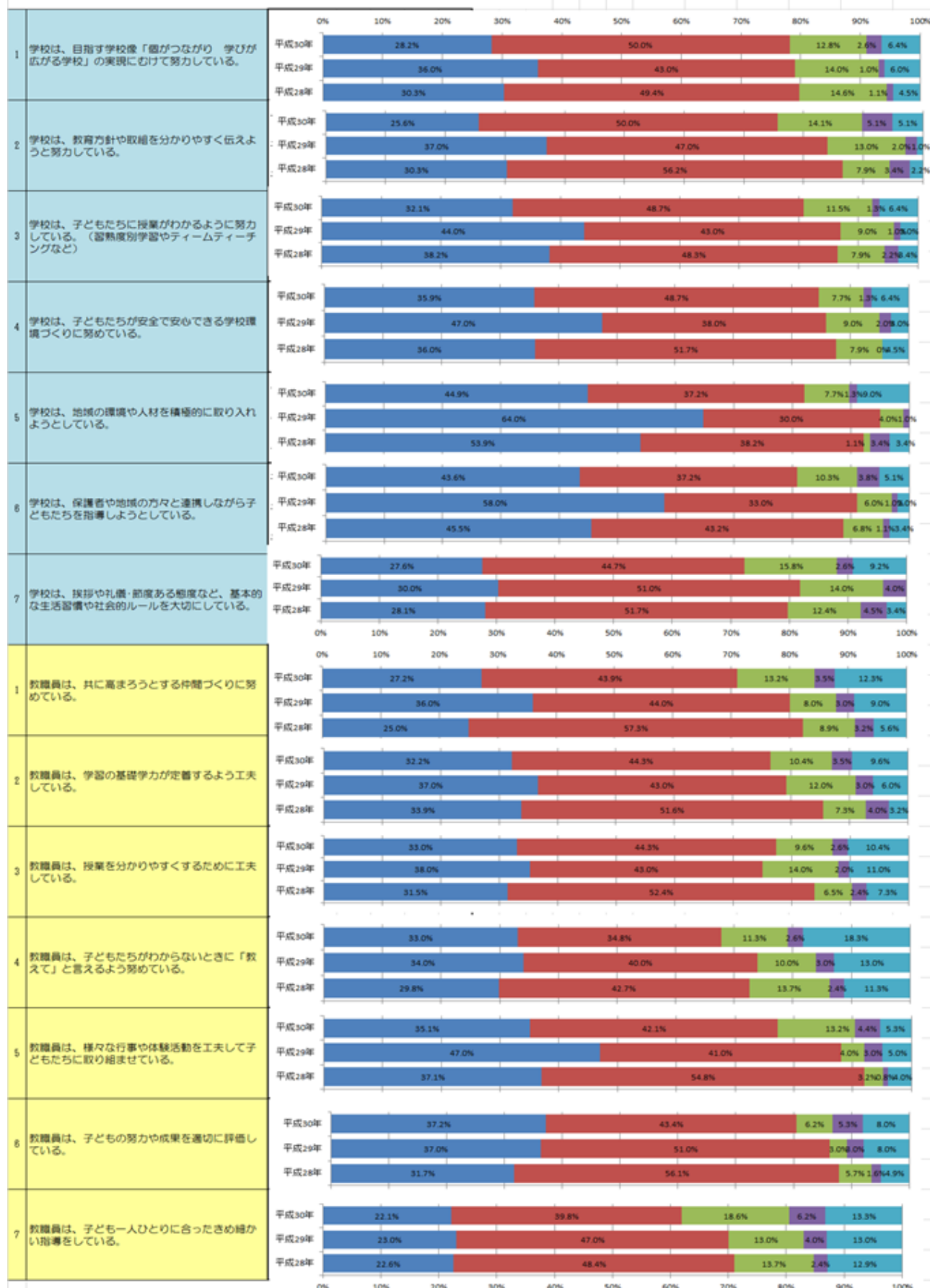
■肯定 ■半肯定 ■半否定 ■否定

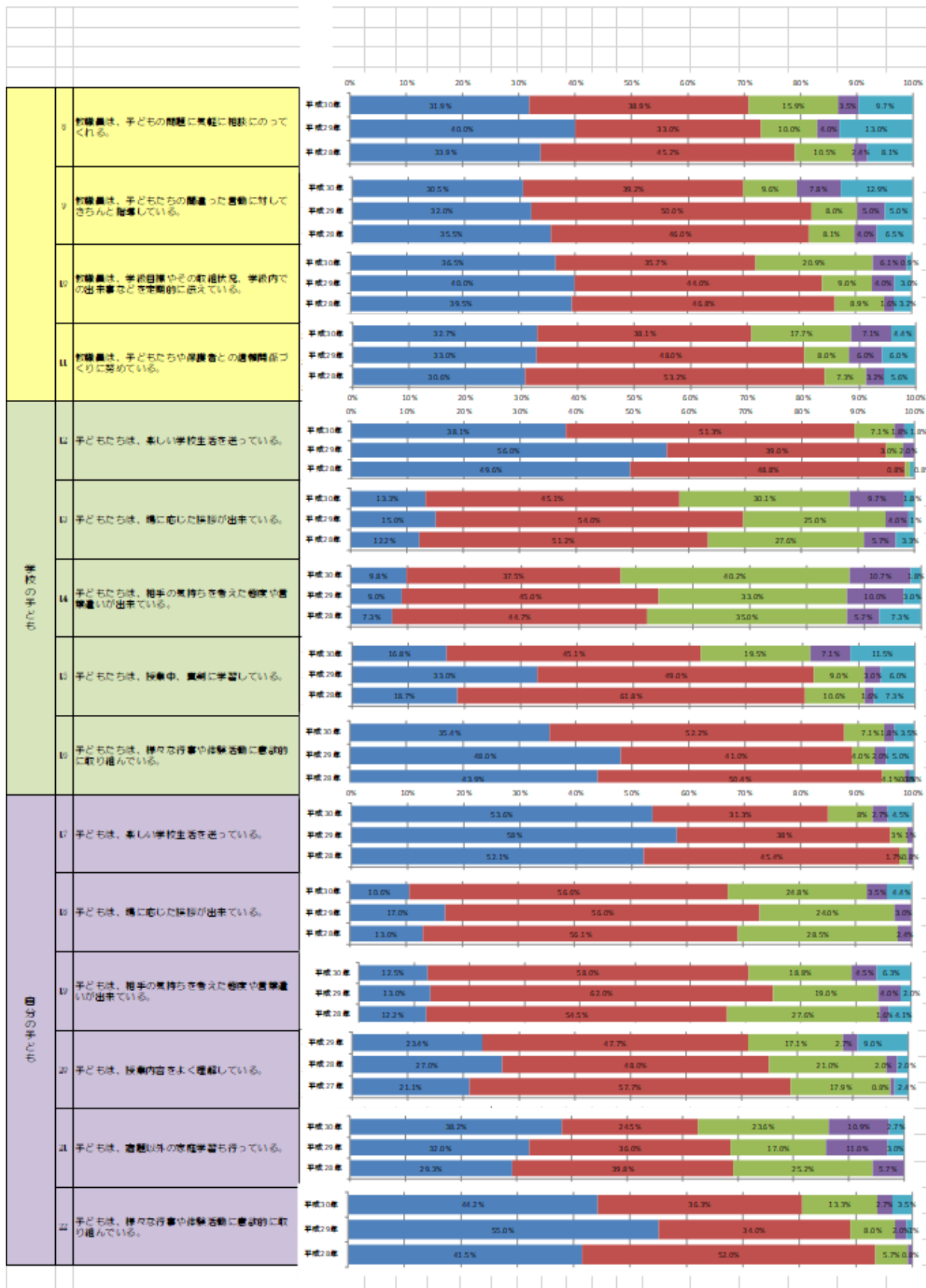




平成30年度 保護者評価アンケート結果

■ そう思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ 判断できない





平成30年度 地域・学校関係者評価アンケート結果

■ そう思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ 判断できない

